

# 令和4年度第1回酒田市女性活躍推進懇話会で出された意見概要

女性が活躍できる場を、企業として、提供していくことが経営側としての役目なのではないかなと思っています。

市内には個人経営の会社にお勤めの方が、女性も男性も含めて、たくさんいる。その社長さんたちの意識を変えないと酒田の女性活躍が変わっていかないのではないのでしょうか。

リーダーの会会員企業が、実際どのように変わり、そこで働く女性たちがどう変わっていったかを、見える化、感じる化に向けて、取り組んでいかなければならない時期に来ているのではないかなと思います。

会社にも1人か2人でも、女性の立場になって考える方がいると、働きやすさという点で違うのではないかなと思っています。どこの職場でも、そういう理解してくれる人がいるということが、とても大切なのではないかなと思います。

IT業界は男女間の差がほとんどなく、どちらかという実力主義。テレワークも進んでいて場所を選ばず仕事ができるので女性も活躍できます。

フルタイム勤務という固定概念が緩み、無理せず働ける時間帯や勤務日数等が選べるようになれば、女性も一歩チャレンジして社会復帰を始めるきっかけになるのではないのでしょうか。



懇話会の委員や、リーダーの会会員企業の社長、そこで働く女性たちに、酒田で働く意義、やりがいのようなものを、高校・大学とシェアしていけたら良いのではないかな。そういう時期に寄せた思いは、大学を卒業しても、心に残っていると思います。

若者はパワハラ、モラハラ、セクハラなどの、デリカシーがない発言を大人がすることによって、生きづらいと感じたら、そこがふるさとだろうが好きな町だったとしても、平気で離れる。どんな人でも生きやすいように、横の関係で意見が通る、風通しの良いところだと、この先の未来も、何があっても、そこに人が集まるのではないかなと思います。

女性たちは、モチベーションやスキルがたくさんあって、実はやりたいことがたくさんある人が多いと思う。しかし出産や育児で遮られてしまうと、自信をなくしてしまう。酒田で働きたいと思っている女性たちに、気軽に集まってできる副業のような何かがあるのではないかなと思います。

これまでは、男性が中心の「働く職場」を作ってきたが、そのような思い込みは昭和の思い込みであり、そこから離れる時期に来ているのではないかな。無意識の思い込みが偏見になっているのではないかな。良かれと思ってしていることが、相手にとっては辛かったり嫌だったり、逃げ出したかったり、時にはハラスメントと受け取られるようなことになってはいないかなということを、みんなできちんと点検していくことが、今まさに必要なのではないかなと思います。

女性のエンパワメントを高めるために、励ましたり、よく頑張ってるねという言葉をかけながら「力があるのだから、もっともっとその力を発揮してみんなで頑張ろうね」という雰囲気づくりをしていくことが何より大事なのではないかなと思います。